

佐高信
経済評論家

八月一〇日付の『日刊ゲンダイ』が、「報道ステーション」の古舘伊知郎がクビになるのではないかと報じている。

BPO（放送倫理・番組向上機構）の放送人権委員会から「被害者や遺族への配慮に欠け、放送倫理上、問題がある」として何度目かの指摘を受けたためだが、それ以上に知ったかぶりが鼻につき、「自分の発言が視聴者の意見を代弁していると思ひ込んで勘違いしている」古舘には「早々にお引き取りいただいた方がいいのではないか」というのである。

私は大体、テレビ朝日のこの番組を見てい

木村剛をコメンテーターに起用した「報ステ」逮捕にも古舘伊知郎はまったく反省の色なし

ない。創価学会タレントの久本雅美を見たくないの、チャンネルをかえるか、スイッチを切ると同じように、妙に深刻だった古舘の顔も私の視野から追放している。前任の「ニュースステーション」の久米宏とは、まさに雲泥の差がある。

古舘の不見識、というより無見識は、竹中平蔵の弟分で、ようやく捕まった日本振興銀行の元会長、木村剛を同番組のコメンテーターとして登場させていたことでも明らかだろう。そういえば、竹中もちょっと出ていた。

私はすでに二年ほど前に、「報道ステーション」の「狂気」は頂点に達した、と書いたことがある。木村を出演させたからだ。

小泉純一郎と竹中平蔵の規制緩和ならぬ安全緩和、民営化ならぬ会社化の「構造改革」とやらに乗って踊り出た三人組がいた。NHKならぬM・H・Kと呼ばれたが、村上世彰、堀江貴文、そして木村剛のトリオである。その後、堀江と村上は捕まったが、ただ一人、木村だけはそれを免れていた。木村が竹中チームの一員で小泉とも近いからだ。

たとえば、『朝日新聞』は二〇〇六年一月一日付の社会面トップで、その疑惑を大きく報じている。まず、タテ見出しで、「木村剛氏が会長 日本振興銀融資」、ヨコ見出しで「親族会長に一億七〇〇〇万円」。記事は十二段に及び、その面のほぼ半分を占めるが、「報道ステーション」はここで報じられた木村の疑惑を知っていて登場させたのか。

いずれにせよ、木村逮捕の時にこのことに触れなければならぬはずだが、古舘は蛙の顔に小便という感じで、シャアシャアとしている。

ちなみに、前掲記事のリードは「この木村剛氏（四三）が会長を務める『日本振興銀行』（本店・東京）が〇五年三月、木村会長の親族会社に約一億七〇〇〇万円を融資していたことがわかった。この融資では担保価値が低いとされる非上場の振興銀株が担保にされたが、振興銀は融資直前、設立時から担保として認めてこなかった非上場株の中で、自

行株だけ認めるよう社内規則を変更していた。金融庁は〇五年十一月から振興銀に初めて検査に入っており、木村会長の親族会社への融資に注目して実態解明を進めている」

そして記事は「日銀OBの木村会長は、竹中氏が金融相当時の〇二年に発足させた金融政策チームの主要メンバー。その後、新銀行として〇四年四月に開業した振興銀の経営に参画した」と始まる。「問題の融資を受けたのは、講演会開催や出版物販売などを行う都内の会社」とあるが、木村が全株を保有して始めた会社で一億七〇〇〇万円の融資を受けた時の代表取締役は木村の妻だった。明らかに、いわゆるトンネル会社である。

「金融庁検査、実態解明へ」という見出しもあるが、検査する側と受ける側が同じ「竹中チーム」なのだから、徹底的にそれが行われるはずもなく、木村疑惑は、政権が交代し、金融相に反竹中の亀井静香が就任するまで解明されるはずもなかった。

『朝日』の疑惑報道からは三年半かかっている。新聞等の活字では、かつての報道をたどることもできるが、古舘のデータメナ訳知り顔はなかなかくつがえせない。